

令和6年12月25日

令和6年度 第8回FD研修会報告書

日時：11月26日（火）14：30（教授会後）～15：30

場所：医療健康学部棟 H207 教室

出席者：28名

内容：「大学IRダッシュボードサービスの共有」

講師：瀬戸就一（ビジネス実務学科、IR室長）

令和9年に向けた第4期認証評価への有用な取り組み事例紹介として、学内資源の見える化をテーマにIRのダッシュボード化の取り組みや、教育の質保証に関する先進的な研修内容の共有を瀬戸教授が行った。前半は試験的に導入したヴェルク株式会社が提供しているIRQuAダッシュボードシステムについての説明が行われた。このシステムは、学内の入試データ、学生数、成績などを視覚化することに特化したもので、学内資源の見える化を手軽に実現する。

IRQuAは、プラン1000人の学生データでは管理者が3人までで運用できるシステムとして設定されており、短大2学年分のデータを1年間利用できるライセンスが付与されている（継続するには毎年の更新契約が必要となる）。このサービスによって、本学の定員充足率、入試区分ごとの志願者数、各入試制度の歩留率、入試区分と就職率の関係、退学・除籍者数の推移、入学から卒業までのGPA値の推移などを簡単に視覚化できる。このように数多くの事例が紹介され、情報公開においてIRQuAの利便性が確認された。質疑応答では、ユーザー数の制限や契約更新の費用増加、集計機能のカスタマイズ可能性について意見交換が行われた。



後半では、「しくみデザイン研究所」のオンライン研修「教育の質保証を一つに文脈で捉える」の内容が共有された。まず、認証評価の取り組みの重要性について再確認し、学習成果の可視化を進めるための具体的な手法として、アセスメント活動の活性化が議論された。その一環として、領域別授業のこだわりと到達目標の意図を共有するワークショップが紹介された。このワークショップでは、各授業にサブタイトルを付け、それを基に意見交換を行う手法が提案された。カリキュラムマップを活用して科目の性格や内容を共有し、学科内での到達目標のバランスや課題を明確化することを目的としている。さらに、各教員が持つ課題意識を踏まえ、授業内容のチェックとノウハウ共有を行い、学科全体の到達目標バランスを見直すプロセスが示された。これらの事例は、教育の質保証に直結する内容であり、学内のカリキュラム改善や認証評価対応に向けた取り組みの参考となる。

今回のFD研修では、学内資源の見える化と教育の質保証の双方において具体的な取り組み事例が紹介された。これらの内容を踏まえ、IRQuAの活用を通じた効率的な情報共有とデータ分析、認証評価に向けた教育活動の見直しと学習成果の可視化が期待される。今後も自己点検評価室や各部局と連携しながら、学内資源の有効活用と教育の質向上に努める。